

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年2月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上1丁目47番22号 (電話) 099-284-6636
自己評価作成日	平成30年1月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年1月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者様と楽しく生活する事を大切にしています。おひとりおひとりに合わせた活動を充実させて、日々の生活の中で共に楽しみながら入居者様と心の通う介護に努めています。敷地内には菜園があり入居者様のご家族の方も手入れを下さっています。入居者様と職員で草取りをしたり収穫の喜びを味わうことで季節の変化を感じて頂いています。ボランティアの方々の協力を得ながら、季節ごとの行事や外出を企画しています。敬老会やクリスマス会にはご家族の方々にも参加を呼びかけ、入居者様とご家族の方々が共に楽しんで頂けるように配慮しています。協力医療機関、訪問看護ステーションとの24時間の連携と協力体制のもと、入居者様の健康管理、救急時の対応をさせて頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域のふれあい会食で認知症についての話をする等、地域貢献に取り組んでいる。
- ・一人ひとりの要望に沿った外出や外泊を家族の協力も得ながら計画するなど、外出の機会が多くなるよう積極的に支援している。利用者は希望したい外出に合わせて歩行訓練に取り組んだりしている。
- ・協力医療機関と24時間医療連携体制が整っており、看護師による健康管理も行われ、利用者・家族の医療面における安心に繋がっている。
- ・紙芝居等を通し利用者と職員が昔の事を回想しながら語り合い、共にゆっくりと過ごす時間を設けている。
- ・敷地内にある菜園では家族が主体となり野菜作りが行われ、利用者と職員で季節野菜の収穫を楽しみ食卓で共に食すなど、家族と職員が協力して利用者を支援することを実践している。
- ・職員は介護福祉士・介護支援専門員・認知症ケア専門士等、資格取得者が多く、専門知識を活かした支援にあたっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を簡条書きにし目に付きやすい場所に掲げ職員が意識付けをしている。職員は意識して地域との関わりを大切にしている。	法人理念と別に事業所独自の理念があり、ホールに掲示している。年度始めや外部評価等の機会に全職員で話し合い、ケアを振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており資源回収にも協力したり、年に2回開催している防災訓練へ地域の方々の参加を呼びかけている。	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議等より地域の行事を把握し資源回収やイベント等に参加している。学生の職場体験・介護職員の実習・ボランティア受け入れ等、近隣者より野菜の差し入れがあったりして地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験学習の受け入れや介護職員初任者研修の実習の受け入れを積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では介護活動の状況等を報告し、意見や助言、要望等を出してもらい可能な限りその場で論議している。ご家族代表以外にも参加をお願いし率直な意見を頂いている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の報告時に質疑応答を行い、より深い報告を行っている。地域の高齢者の現状等、地域の情報を得たり、家族の思いを聞く等、意見を活かすよう取り組んでいる。避難訓練を兼ねて実施した際は、消防署職員の参加もある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>社会資源の活用や生活保護の受給者の処遇等の相談や対応を行い運営推進会議等で長寿あんしんセンターともつながりを持ち相談できるような関係づくりに取り組んでいる。</p>	<p>市の担当者とは窓口に出向いて報告や相談をしている。自治体主催の研修に積極的に参加し情報を得ている。利用者の状況に応じ福祉用具給付の相談や申請を行っている。介護相談員の受け入れもしている。生活保護担当者とは電話や直接現況を伝えている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し定期的開催している。身体拘束に抵触しそうな行為がないか確認している。日中は玄関の施錠はしていない。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心にマニュアルを基に内部研修や外部研修で職員の意識統一を図っている。言葉や表情等による抑圧感がないか、現状に合わない抗不安薬はないか等、日常的に身体拘束のないケアを実践している。玄関の施錠はしておらず、職員間の声かけや見守りで制限のない生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に身体拘束や虐待についての研修を行っている。また、外部の研修に参加し職員に報告を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設けている。現在、成年後見制度を利用されている方はいらっしやらない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、時間をかけて丁寧に説明を行っている。重要事項説明書や契約書に基づき、ホームの介護に関する考え方や活動、入退居の条件も含めた事業所としての対応可能な範囲や医療連携体制、看取りの指針など詳しく説明し、理解、納得、同意を得た上で契約をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会を開催し意見や要望をお聞きし、意見や苦情は管理者が責任を持って対応している。必要な場合は職員間で話し合い速やかに改善し、報告できるように努めている。また、外部の相談窓口については契約時に説明し、重要事項説明書での掲示を行っている。</p>	<p>利用者には日々の会話を通して思いを把握している。介護相談員の面談からも要望等を聞いている。家族からは面会時や家族会・運営推進会議等で意見を聞き、シルバーカー購入の相談には、法人内での情報を得て公的補助での購入を助言している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議や随時のミーティング時に職員の意見、要望等を話し合う機会を設けている。また、日々のコミュニケーションも大切に職員同士が話し易い職場環境作り、関係作りに努めている。	日常的に管理者と職員は互いに気付きや意見を交換している。毎月の職員会議やカンファレンス時にケアに関する事や備品購入等の要望が出され、法人に報告・相談し対応している。個別には管理者が受けて対応している。管理者はこまめに運営者に報告や相談を行い環境の整備や質の向上等、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人役員と法人内の2つのグループホーム・4つの小規模多機能ホームの管理者で運営会議を月に1回開催している。それを通して、代表者も職場や職員の状況を把握し、職場環境や条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修会や、グループホーム連絡協議会の研修、社会福祉協議会主催の研修会に参加できるようにしている。参加しやすいように勤務体制の調整をしている。研修受講後は職員会議で研修の報告を行っている。年間学習計画に基づいて内部研修も行っている。また、資格取得も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し研修会に参加している。医療生協主催の介護交流会や研修に参加し情報交換や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用相談があった時は施設見学、面談などを行っている。生活の状況や支援方法、要望等を把握し本人様が安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族と面談を行っている。要望や悩みを聞くことで生活状況を把握し、グループホームとしてどのような対応ができるか検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時に本人様やご家族の状況を把握し、利用開始までの一連の流れを説明している。空室がない場合や、相談内容がグループホームの役割と異なる場合は他の事業所のサービス利用の説明等の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話、行動など生活の中で変化に気付けるように努めている。ひとりひとりが役割を持ち楽しく自信を持って生活できる関係を作り、また共同で作業することにより交流を持てるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで状況説明を行い普段の様子など細かく報告し利用者様、ご家族、職員がよい関係であるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や友人・知人と電話や手紙などのやり取りを継続していけるよう支援している。	日々の会話の中から馴染みの人や場所を把握し、自宅や昔住んでいた場所の友人・墓参り等に行ったり、手紙や電話を取り次ぐ等の支援をしている。家族より関係性を聞き、自室でゆっくりお茶を飲みながら会話ができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性が保てるよう職員が間に入り配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方や、他の事業所に移られた方でも面会に行くなどして関係が途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的な聞き取りによる要望の把握に努めている。把握が困難な入居者様の場合は、ご家族からの情報を得て職員間の話し合いの中で介護に反映させている。	日常の会話や家族との面談等で一人ひとりの思いの把握に努めている。思いが伝えられない利用者は声かけやボディータッチ等での些細な反応や表情の変化で思いを察知するよう努めている。家族の情報等から推測することもあり、本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は本人様やご家族との面談の把握するようにしている。できるだけ本人様が生活されていた場所へ出向いて生活されていた環境を見るようにしている。入居後は、日常の会話やご家族などの面会時にお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活リズムを把握できるように職員全員で取り組み、日々の言動・行動や表情からの気づきを大切にしている。入居者様のできることを見出し状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には普段の生活の中での意志や思いを傾聴し介護計画に反映させている。計画作成者だけでなく職員がアセスメントを実施し本人様の意向や生活に対する意向を伺い、カンファレンスでさらに検討し介護計画を作成している。	利用者・家族の要望等を聞き、主治医の意見も参考にしてカンファレンスで検討し介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月に1回実施し、6ヶ月に1回及び状況変化時に介護計画を見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、日常の様子観察を行いながら水分量・食事・排泄など中心に把握し行動・言動にも着目しながら記録を残し情報を共有し周知している。その中で介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が多忙な時は諸手続きの代行や、受診等を行っている。また、季節にあわせて花見や外出を計画している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会区長、民生委員、長寿あんしん相談センター職員にも参加してもらい、地域行事の情報や助言をもらっている。また、防犯や防災、入居者の離脱などでは交番や消防署の協力をもらい支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や利用者の心身の状態に変化のあった際にはかかりつけ医に相談し家族や入居者の意思を尊重して決定している。協力医療機関にかかりつけ医の変更を希望される場合には、前主治医からの情報提供や同意を得て変更を行っている。また、利用者の健康状態をかかりつけ医と事業所が連絡・相談できる関係づくりを行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しており、協力医療機関以外の場合は連絡票を家族に渡している。協力医療機関への受診は職員が同行し、4週に1回の往診及び24時間の医療連携体制を構築している。看護師の訪問や事業所看護師の健康管理も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常生活の中で気付いた変化を訪問看護師やホーム看護師に伝え、相談している。入居者様それぞれが適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、主治医・看護スタッフ・ご家族との連携を密にとり対応している。管理者や職員がお見舞いに行き入院中も利用者が安心感を持ち早期退院ができるように支援している。退院前は主治医やご家族とのカンファレンスに参加し退院後も安心して過ごせるよう努めケアについての助言を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成しており契約時に説明を行っている。また、重度化した場合にはご家族や本人様の意志を尊重し協力医療機関や契約している法門看護ステーションとの連携を取りながら事業所として対応し得る最大限の介護を行えるようにしている。	契約時に重度化等の場合の対応について指針により説明している。重度化等の場合には主治医より家族に説明し、家族の意向を確認すると共に同意書ももらっている。利用者の状況に応じ、本人・家族・職員・医師・看護師等と連携を図りながら段階的に検討し、方針を共有する体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修で救急手当や蘇生法の学習会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、消防署の協力を得て、避難経路の確認・避難誘導の方法・消火器の使い方・通報訓練等を実施している。地域の協力体制については運営推進会議で町内会区長や民生委員さんに協力をお願いし防災訓練前に地域の方々や入居者ご家族にも参加をお願いしている。</p>	<p>運営推進会議と同日に開催し、町内の区長や民生委員・家族の参加・消防署職員の協力を得て年2回、昼夜想定にて避難・通報訓練等を実施している。スプリンクラーの設置や消防機関への通報設備がある。災害時備蓄として、カセットコンロ・缶詰・パックご飯・レトルト食品・インスタント食品等がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>オムツ交換やトイレ誘導時は他者に見られないよう配慮し、目に触れないよう汚物を処理している。においがこもらないように配慮している。個人情報の取扱いについては内部研修等で個人情報保護について学び個人情報保護の徹底に努めている。</p>	<p>人格を尊重して利用者に接するよう努めている。内部研修や気になる言葉かけや対応があった時は気づきを管理者は職員に伝え意識付けを行っている。オムツ交換は居室の戸を閉めて行うなど、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。特に排泄に関しては周囲に失敗を気づかれないよう配慮している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>生活場面において、今どこで過ごしたいのか意思確認をしてから誘導している。献立を立てる時に食べたい物はないか、外出を企画する際はどこに行きたいかなどを伺い入居者の希望を大切に支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の日課はあるが、あくまでも全体的な目安とし、ひとりひとりのペースや希望、その日の体調や気分などによって食事時間や入浴など可能な限り柔軟に対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>ひとりひとりの生活習慣や好みで自己表現ができるように支援している。普段着る洋服を買いに職員と出かけて選んでもらったり訪問理美容の際は本人様やご家族に希望を聞きながらカットやヘアカラー、パーマなどをしてもらっている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を取り入れ献立に反映したり、野菜のカットや皮むき、下膳や片付け、お盆拭きなどできることは職員と一緒にやっている。	献立は利用者の好みを聞きながら職員が作成し、刻みやミキサー食なども個々に応じた食事形態で提供している。職員と一緒に下ごしらえや食事・片付け等をしている。差し入れや菜園の旬の野菜等で季節を感じてもらったり、行事食や誕生日のケーキ、外食等の楽しみも工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士の指導を受け、バランスのとれた食事を提供している。水分や食事の摂取量のチェック表をもとにひとりひとりの摂取量を全職員が把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけや介助を行い口腔内の保清に努めている。義歯を使っていない方もうがいをしたり舌ブラシを活用している。状態に応じて歯科の訪問診療を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの入居者様の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、できるだけ自然排泄できるよう促している。尿意・便意のない方はできるだけトイレで排泄できるように声かけ・誘導している。	一人ひとりの水分摂取量・排泄を記録し、職員は共通把握している。利用者のトイレで排泄したい意向を大切にしている。夜の排泄も本人が遠慮して我慢しないよう、声掛けに配慮し対応している。排泄パターンを把握し、日中は一人ひとりの状態に応じて見守りや声掛け、誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れたり水分をきちんととって頂いている。また、レクリエーション活動や体操等で身体を動かす機会を設けて自然排便できるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や、その日の順番、気候による気温などに配慮し声かけをしている。入浴しやすい環境作りに努めている。	入浴は週2～3回だが、日曜日以外は毎日入浴できる体制がある。本人の意向やその日の状況に応じ午前中や午後等、柔軟に入浴できるよう対応している。保清でのシャワー浴や皮膚疾患があれば毎日足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の体調や状況に応じて活動を促している。また、安心できる環境作り努め、休息したり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬の内容を把握できるように専用のファイルを作成し薬の説明書を整理している。お薬の変更があった際には申し送りノートに記入し職員全員が周知できるようにしている。与薬時は職員2名で名前の確認を行い直接手渡し、飲み込むまで確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者様ひとりひとりの役割、楽しみが持てるよう環境作りに努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族の協力を得ながら外泊や外出ができるよう支援している。天候や入居者様の希望を考慮しながらホームでの行事や外出を計画している。</p>	<p>敷地内の外気浴や日光浴・菜園の収穫等をしている。花見や初詣・物産館・動物園に年間計画で出かけたり、2～3人での外食や自宅訪問等、希望に沿って外出している。家族と外食や墓参りで外出したり外泊をする利用者もあり、できるだけ出かけられるよう支援している。個々に応じた外出支援をしている。外出が容易でない利用者には天候や体調に留意しながらベランダから外の景色を一緒に楽しんだりホームの駐車場で外気浴したり工夫している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理はご家族にお願いしており、必要時にはご家族に承諾をもらい物品等を購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者様の希望に沿って手紙やはがきを送る支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が居心地が良いように工夫している。また、季節感を感じられるような飾り付けをしている。	ホールは日当たりがよく、温度等の室内環境が適度に調節され、畳のスペースもありゆっくりできるような配慮している。室内の飾り付けやベランダから見える畑や海で季節を感じる事ができる。カーテン等で眩しさを調整しながら居心地よく過ごせるよう配慮している。台所から料理する音や匂いが身近に感じられ、居心地よく暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置を気の合った入居者様同士で近くに座れるように工夫している。また、ゆっくりと過ごせるように空間を作っている。	/	/
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力をもらい本人様の好みや使い慣れた家具等を用意していただいたり本人様の身体の状態にあわせた配置を行い居心地よく過ごせるように工夫している。	洗面台やエアコンを備えた居室に、本人の使い慣れたベッドやタンスの家具を置いたり、仏壇・テレビ・位牌などを好みや必要に応じて持ち込み、写真や作品を飾ったりして、本人が安心して過ごせるようにしている。本人に負担が少ない特殊寝台に移行する等、本人の行動や身体状況に合わせて居心地よく過ごせる配慮を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居様がわかりやすく使いやすいような表示をし、安全にできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない